

松本の18歳・田中さん、受験し合格

チェコの国立大に留学へ

松本秀峰中等教育学校（松本市）を3月に卒業した田中宏樹さん（18）は松本市が今秋、東欧チエコの国立カレル大に留学



「自分を引き上げてくれる先生や友人に出会いたい」と留学への期待を話す田中宏樹さん

する。医学部進学を目指す人が対象の「予備コース」。同大は14世紀創立の伝統校で、ノーベル賞受賞者も輩出している。3

佐藤優さん著書に刺激受け

日には東欧に詳しい元外務省主任分析官で作家の佐藤優さんが、「梅棹忠夫・山と探検文学賞」の授賞式で長野市の信濃毎日新聞本社を訪れ、講演する。宏樹さんは佐藤さんの体験に学ぼうと聴講を楽しみにしている。

父親の直樹さん（49）は信州大医学部准教授。以前に米国立衛生研究所（NIH）の客員研究員を務め、宏樹さんも小学3年から中学2年まで米国で暮らした。英語を話すのはあまり得意でないというが、聞き取りに不自由はなく、帰国後、留学への思いを募らせた。

宏樹さんが哲学や歴史が好きなることを踏まえ、直樹さんは歴

史のある欧州の大学を探し、東京で試験が受けられるチエコの大学を見つけた。昨年12月に受験し、合格。9月から来年6月ごろまで、首都プラハから50キロほどの町ポデブラディで、生物、化学、物理などを英語で学ぶ。来年4月にある医学部の試験を受けるつもりだ。

宏樹さんは、梅棹賞受賞作で、佐藤さんが高校1年だった1975（昭和50）年に東欧・旧ソ連に一人旅した回想録「十五の夏」を讀破。「15歳で大人と対等に議論してすごい」と感じたという。「佐藤さんが政治や社会主義に抱く興味が、どこから来ているのか知りたい」と話している。